

相模原市青少年指導委員
広報誌！



第63号

相模原市青少年指導委員
連絡協議会

発行編集 広報部
発行責任者 市丸克己

はげいとう



特集：各地区のコロナ禍における取り組み！



■はげいとう の名称について

1968年青少年指導員制度が制定され、同年9月、『青少年の家』で宿泊研修が行われました。青少年の家の庭に咲いていた『ケイトウ』の花が夕映えに輝き美しかったことや、ゲーム研修での『土びん、茶びん、はげ茶びん』が楽しかったことを忘れずにとの思いから、広報誌を作成するにあたり、『はげいとう』と名付けられました。



よろしく
お願いします。

相模原市行政職員からのご挨拶



犬飼主事

渡部総括副主幹

臼井主任

牛田主任

青少年学習センター所長 滝原哲也様

4月に青少年学習センター所長となりました



滝原と申します。

青少年学習センターの職員とともに、青少年指導委員をはじめとする青少年関係団体の皆様と一体となって、青少年の育成活動に尽力いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

こども・若者支援課長 千葉恵子様

4月にこども・若者支援課長となりました千葉と申します。青少年指導委員の皆様におかれましては、日ごろから子どもたちの健全育成活動にご尽力を賜り感謝申し上げます。

未来を担う子どもたちが健やかに成長していける環境づくりを進めるため、青少年関係団体の皆様とともに様々な課題に取り組んでまいりたいと考えております。

今後ともお力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。

こども・若者未来局長 榎本哲也様

こども・若者未来局長の榎本と申します。青少年指導委員の皆様におかれましては、日ごろから子どもたちのイベントへのご協力や、地域における子どもたちの居場所づくりの推進役として、ご尽力を賜り感謝申し上げます。

昨今のコロナ禍において、昨年度は学校が一時休校になり、子どもたちが楽しみにしていたイベントや事業が開催できないなど、子どもたちの日々の暮らしにも多大な影響が出ております。このような状況下だからこそ、皆様のような子どもたちが健やかに育つために見守ってくれる地域の方々のご助力が不可欠であると考えております。

今後とも子どもたちの輝かしい未来の実現のために、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

～お世話になりました～

前こども・若者未来局次長

杉野孝幸様

3月で退任しました杉野です。

二年間こども・若者未来局次長として、市民まつりや親子ふれあいの広場などで皆様のご活躍する姿を近くで拝見いたしました。

4月からは教育委員会教育局長に着任いたしますが、青少年指導委員の皆様には、教育現場と連携する地域社会において、子どもたちの成長を見守り、ご指導いただけることを切に願っております。

前こども・若者支援課長 佐々木純司様

3月で退任しました佐々木です。

青少年支援班の班長として一年、こども・若者支援課長として三年の合計四年間、皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

4月からは、市長公室シビックプライド推進部長に着任いたしました。次代を担う子どもたちが、相模原市に「誇り」「愛着」「共感」を持っていただけるよう、皆様とともに市の魅力を発信してまいりますので、今後とも、いろいろな場面でお世話になるとは思います。よろしくお願い申し上げます。

前青少年学習センター所長

佐々木春美様

3月で退任しました佐々木です。

一年間という短い間でしたが、「親子ふれあいの広場」オンライン開催をした際につけていただいた動画では、コロナ禍でも皆様が子どもたちに楽しんでもらおうとする熱意がとても伝わってきました。

4月からは博物館長として、子どもから大人まで、楽しみながら相模原や宇宙について学べる環境を引き続き整えてまいります。皆様のご来館をお待ちしております。

この一年を振り返って

連協本部役員の皆さんにこの一年を振り返っての想いをいただきました。

みなさん、元気になってますか

会長 市丸克己（上溝）

今期も半分が終わりましたが、昨年より猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症により連協の活動も非常に制限され、不安の中での一年になってしまいました。

（特に新任の皆さまにはストレスが溜まってしまいましたね）

そんな中、感染症対策をしっかりとった上での活動事例や動画撮影など積極的に取り組んで頂いた地区もありました。本当にありがとうございました、感謝申し上げます。



◆この一年の連協活動を振り返ってみますと

- ・青少年指導員の名称が変わりました：令和 2 年 4 月 1 日より「青少年指導委員(青少指)」になりました
- ・親子ふれあいの広場の YouTube 動画配信&FM さがみでの開催 →見てくれましたか！聴いてくれましたか！
- ・市政功労者表彰、神奈川県青少年指導員表彰、神奈川県青少年育成活動推進者表彰で計 9 名の方が受賞されました（詳しくは 18 ページ参照）受賞された皆様おめでとうございます！

これからも大変な渦中ではありますが、何ができるか、皆で考えて活動していければと思います。

コロナに負けないで元気に明るく楽しく安全に！

今後ともよろしく願っています。

コロナに手足をもぎ取られた青少指 事業企画部長 伊藤時彦(大野南)

コロナ、コロナで子どもさんに全く接する機会が無い一年でした。青少指が子どもに接しないことは、手、足をもぎ取られたダルマです。

ダルマは各家庭では皆に愛されています。私たちもダルマでいいのです。ダルマには頭、目、口があります。これだけあれば、大丈夫です。

みんなで、色々考え、知恵を出し合い、話し合い、子どもさんと再会した時にその成果を発揮しましょう。

その時のために
子どもの笑顔を
それまで待ちま
しょう。



この一年、そして次のステップへ 研修部長 本郷永子(星が丘)



深い深呼吸と、大きく両手を広げて子どもたちを迎えてあげたい気持ちの強い一年でした。

活動の制限により、「こんな年もあるのかあ」と、思いながら「何かできることを探そう」と、画策し次年度は研修部のスキルアップを目指します。



めざせ！やる気 MAX

広報部長
齊藤一城(大野中)



コロナ禍における活動自粛の中、広報部会は三ヶ月続けて休止。広報誌を編集しようにもネタも無い・・・で一時はテンション↓↓

そんな中で各地区の皆さんから原稿が集まり、これを無駄にしていけない、各地区でコロナに負けず積極的に取り組んでいる状況を伝えねばと力が湧いてきました。

逆境に負けるな！

広報部一同より良い広報誌が出来るよう頑張っています。

今年度を振り返って

事務局長 入江康典(上鶴間)



わたしたちにとって、忘れられない一年になりました。

過去になかった経験、想像力を最大限に使い、今できることを、可能な限りの連絡で共有しながら、探り続けた一年になったと思います。

4 月からまた、終わりの見えない一年が始まるでしょう。新任の皆さんもベテランも関係なく、地域子どもたちと一緒に活動できるようになったら何ができるか、青少年指導委員全員の知恵と力を集めて、いつかは子どもたちの前で出せる、大人のポケットの中身をぜひ、素敵なものにしていきましょう。

皆さんのアイデアが、今こそ、生きるときです！

特集

各地区のコロナ禍における取り組み

2020 年を表す漢字として『密』が選ばれました。他にも「ステイホーム」や「ソーシャルディスタンス」などに象徴されるように、【集まる】ことが大変難しく、【集まる】ことで子どもたちとつながる私たちの様々な事業が、中止に追い込まれました。

そんな状況にも負けず、自分たちにできることは何か、悩み考え抜いた各地区での取り組みを紹介したいと思います。そしてこれからも、子どもたちとともに未来を信じて、私たち青少年指導委員は歩みを止めずに進んでいきます。

Aブロック：相原、橋本、小山、大沢

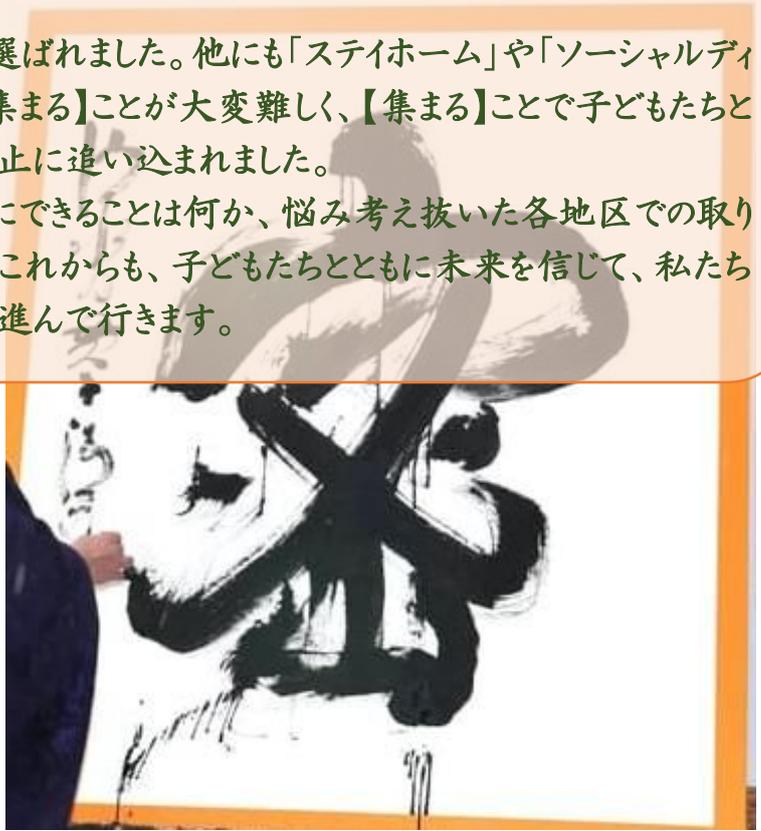
Bブロック：大野北、横山、中央、清新

Cブロック：田名、陽光台、上溝、
星が丘、光が丘

Dブロック：麻溝、相模台、新磯、
相武台

Eブロック：上鶴間、東林、
大野南、大野中、大野台、大沼

Fブロック：津久井、城山、相模湖、藤野



相原地区 ★コロナ禍で進むべき道を模索

昨年度予定していた事業は、このコロナ禍の中でほぼ中止となりました。6月までは、地区としての活動もほぼできず、6月になって再開された公民館をお借りして、令和2年度の最初の地区協議会を開くことができました。

その時点から地区協議会の中で、残された事業の開催について公民館との協議を重ねました。11月と1月に予定していた事業については、内容を考慮した上で入れ替えを行いました。しかし、その後コロナの感染状況から11月も1月も中止となりました。

このような判断を下す過程で、我々が考えたことは、事業を開催することとコロナの感染拡大のどちらを選択するかということでした。

参加する子どもたちのニーズに沿った事業にすべく、アンケートを実施することにしました。公民館の承諾もいただき、実施直前で2回目の緊急事態宣言が発令され、公民館が使用できなくなり、アンケートの実施も困難になりました。公民館が再開され、状況が安定したらアンケートを実施し、今年度の事業がより良いものとなるように努力していきたいと考えています。



—昨年の「わんぱくまつり」の様子

橋本地区 ★世界にひとつだけの DECO マスク フォトコンテスト

橋本七夕まつり、公民館行事の夏事業・冬事業・子どもまつり等、全て中止となり何か子どもたちが参加できる企画をしたいと思います、橋本公民館との共同主催でデコマスクのコンテストを企画・開催しました。

コロナ感染症対策で必要不可欠となったマスク！そんなマスクがコミュニケーションツールになればよいのではと思い、「気分が上がる！」「笑顔になる！」オリジナルマスクを募集！名付けて、「世界にひとつだけの DECO マスク フォトコンテスト ～デコって、自分だけのオリジナルマスクを作ろう！！」

橋本公民館区内の小学校 3 校にお知らせを配布して、市販のマスクやお手製のマスクに絵を描いたり、シールや刺しゅうなどで自由に装飾してもらい、それを写真データで提出してもらいました。冬休みの間に頑張って作ってくれたマスクは、どれも個性的で、可愛くて、楽しくて、子どもらしい素敵な作品ばかりで、選考に大変苦労しました。

でも本当に素晴らしい作品ばかりで、この企画をやった良かったと思います。

まだまだコロナの終息には程遠いですが、子どもたちが喜んでくれる次の企画を考えたいと思います。



小山地区 ★小山遊 you ラン土開催！

毎年子ども実行委員を中心に盛り上がっていた、子どものための子どものおまつり「メルヘンランド」も開催中止になり、定期的に行われていた「小山遊 you ラン土」も緊急事態宣言という大きな波に中止をよぎなくされコロナ禍の中で足踏み状態の日々を送っていました。

一度目の緊急事態宣言が明け、子どもたちに何かできることはないか集まることもままならない時期でしたが話し合いを重ね昨年 12 月久しぶりに「小山遊 you ラン土」を開催することができました。

「きれいな文字で年賀状を書こう」講師の先生をお招きして難しいひらがな文字の練習から始まり、自分の名前をお手本を見ながら書いていきました。初めはなかなか思うように書けなかった文字も丁寧な添削や指導をしていただき何度も練習して綺麗に書けるようになりました。年賀状を書く上で大切な「明けましておめでとうございます」添削をしていただきながら練習をして最後は可愛いシールなどでデコレーション。

気持ちのこもった年賀状を受け取った方はきっと喜ばれたことでしょう。参加人数は少なかったものの 1 人 1 人にしっかりと目を配れた中身の厚い内容だったと思います。

今後も感染対策をしっかりして、子どもたちの笑顔に会えるように企画を考えていきたいと思っています。



きれいな文字で年賀状を書こう



きれいに書けるかな♪

大沢地区 ★世界に一つだけの自分のモノをつくろう！

これからの新しい生活、新しい取り組みの中で私達ができる事は、やっぱり今までと同じで、子どもたちとふれあい、話し合い、おこったり、励ましたりしながら、成長を見守ることだと思う。

来年度、新しい取り組みで、「さわっ子！木工教室」が計画されている。あえて作る物を決めずに、「世界に一つだけの自分のモノをつくろう！」と言うコンセプトだ。イメージ・設計・材料そろえて・組み立て。さて、どんな物ができるかな？ ^_^

この取り組みは完成がゴールではない。工程・経験が大切なのではないかと、言う考えからだ。と、言っても私たち青少指だけでは難しいので講師の方のご指導を受けながら行う予定になっている。さて、今から講師の方の作品を見ながら、みなさんも、イメージをふくらませてみよう！



何を作ろう・・・



世界に一つだけの作品だ！



大野北地区 ★おうち de ゆめ教室

新型コロナウイルスにより、本来の活動が出来なくなっている中、大野北では「今出来る事」を考えゆめ教室の動画配信という方法で 6 月頃より本格的に活動。動画にする事により撮影の仕方、言葉など、分かりやすく見てもらうにはどうしたらいいか？など考える事が出てきて私たちも勉強になりました。慣れない事で緊張の連続でしたが試行錯誤しながら何とか繋げています。

12 月のクリスマスツリー設置の飾り付けには配信した動画のオーナメントを作って飾りに来て貰う方法を行ってみました。日時を決め発信はしてみましたがかなか思った様にはなりません。今後の課題ですね。

こんな時だからこそ知恵を出し合い出来る事をして行きたいと大野北は思っています。



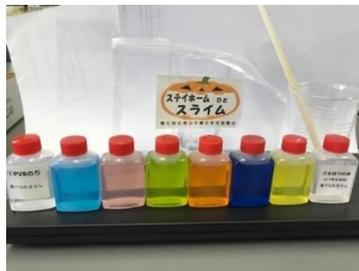
横山地区 ★よこやま Kids 通信で子どもたちを応援！

横山地区では、おもに公民館青少年部と健全育成協議会で、毎年事業協力しています。

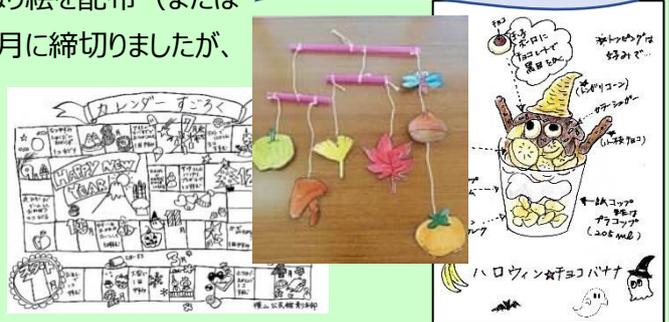
今年はステイホームで楽しんでもらえるよう、青少年部で公民館のホームページを利用して、『よこやま Kids 通信』を 6 月から毎月 1 回のペースで発信を始めました。

紙ベースでも公民館窓口で入手できるようにしています。主な内容は、これまでの子ども料理教室のレシピや、工作の紹介ですが、特に「ステイホーム」や「手洗い」などコロナに負けないことをテーマにした、オリジナルぬり絵を配布（またはダウンロード）して、色をぬって提出してもらいました。12 月に締切りましたが、全作品をホームページや公民館内で掲示しました。

※Kids 通信は下 ↓ の QR コードでも見ることができます



Kids 通信の内容を一部紹介



また、健全育成協議会では、横山小学校 PTA まつりが中止のため、毎年行っていたスライム工作を ←左のキットにして、全校生徒にプレゼントしました。

中央地区 ★焦らず感謝しながらつながり方を模索

《三密回避》・《人との接触減》が求められるご時勢、公民館の青少年部・体育部等・健康作り普及員合同で 11 月 14 日に実施した「ストレス解消ウォーキング」が唯一、青少年指導委員が参加者と直接触れ合える行事となってしまいました。

対策を立て 2 月に計画した「子ども手づくり広場(工作教室)」も 11 月の試作後中止！ 先の見えなかった一年間でした。

そんな中、展示参加という小学生も巻き込んだ各団体協力による「クリスマスイルミネーション」がコロナ禍の新しい形の企画でした。会議のあり方も含め、今後の取り組みは新たな発想の転換が必要な感じがします。世代・人により捉え方も違い、気持ちをつなぐ難しさを感じますが、焦らず感謝しながらつながり方を模索して行きましょう。



清新地区 ★コロナ禍に翻弄されて

2020 年 8 月に公民館青少年部企画会において令和 2 年度の行事はすべて中止すると決定をしてから半年以上が経過しました。

緊急事態宣言の影響もあるとは思いますが、子どもたちの姿や話し声が館内から消えてしまった事は言葉に表せない程、寂しいものです。

青少指だけでも何か開催できないかと準備をしましたが、二度目の緊急事態宣言が発令した為、企画倒れになりました。

令和 3 年度は例年通りにはなりません、感染症対策の観点からインターナショナルクッキングや老人会に協力いただくグランドゴルフを工作やポッチャに変更するなど、今までの様に子どもたちに楽しんでもらえるような事業内容を考えています。



準備した かざぐるま



田名地区 ★子どもまつり開催

昨年は、田名地区の「ふるさと祭り」と同日開催し賑わいを見せ、今年度も同様にと考えていましたが、コロナ禍により中止。

何かと制約を受けている子どもたちに何かできないだろうか！と模索し、12 月に半ば賭けではありましたが、子どもまつりを開催しました。

感染防止のため少人数で分散し、距離をあげながらの開催。(写真だとサミシイ・・・)

当日は、暖かい晴天！に恵まれ、紙飛行機飛ばしフラミンゴ(写真)・クイズ・輪投げを楽しんだのち、ポップコーンジャンプで勝ち取り楽しみました。

例年と違う時期だったので、“子どもたちが来てくれるかな？”と不安の残る中ではありましたが、子どもたちにつかの間の楽しさを味わってもらえたと思います。



上溝地区 ★コロナに負けない事業

例年、12月に子どもたち150人程を集めてクリスマスの集いを開催してきました。歌ありレクあり、人形劇やマジックショー、そしてサンタからのプレゼントなど盛りだくさんの内容で、子どもたちからは人気の企画でした。

今年はコロナ禍の中、何か出来ないかと思案し、公民館のエントランスにクリスマスツリーを作ることになりました。

「あーでもない、こーでもない」と言い合いながら（特に市丸会長にはこだわりがあったようww）楽しく作ることが出来ました。

お陰様で子どもからお年寄りまで大好評でした。（苦労した甲斐があったな～）

また、例年、夏休みにこどもセンターや児童クラブなど数カ所で創作教室を開催してきましたが、今年は「コロナに負けるな」と題して子どもたちにコロナをやっつけるポスターを描いてもらうことにしました。

描かれた絵は150枚程になり、その絵はクリスマスに青少指がサンタになりプレゼントと交換にもらってきました。そこから50枚程を選び公民館まつりで掲示していくことにしました。

子どもたちにはコロナの絵はチョッピリ難しかったようでしたが、プレゼントをもらえて大喜びでした。



ワーイ、サンタが大勢やってきた！



議論百出・・・やっと出来たツリー

星が丘地区 ★本場のハロウィーンでアメリカ気分

星が丘地区では、毎年10月終わりに相模原駅前にある、相模総合補給廠（通称 相模デポ）を訪問して、米軍の皆さんとハロウィーンイベントを楽しんでいます。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、デポを訪問することはできませんでしたが、代わりに米軍の皆さんが、星が丘公民館を訪問してくれました。

子どもたちも感染防止のため少人数に分散して、距離を開けながらの参加です。仮装してくれた皆さんが、アメリカの怖い話をしてくれた後、みんなにアメリカのポップなお菓子を配ってくれました。英語（通訳付き）だったけど、本場の雰囲気伝わったかな？

なお、日本で人気の「鬼滅の刃」はアメリカでも「モンスタースレイヤー」という名前で大人気なんだそうです。



光が丘・陽光台地区 ★J・L 養成研修 コロナ禍に負けないぞ！

令和 2 年度はコロナ禍により、平時の日常が一変してしまっただ。そして、当たり前の事が当たり前でなくなり、市及び公民館の様々な行事、地域のまつり等の催しが、ことごとく中止を強いられ、変化が問われた一年となった。

この厳しい状況下で、唯一、光が丘地子連の「J・L 養成研修」が、小学 5・6 年生を対象とした 23 名の研修生が参加して開催された。この研修に光が丘・陽光台地区の青少指が合同でサポートとして参加した。

地子連役員による屋内の換気、扉や窓枠等のきめ細かい献身的な消毒の設備面から、受付時の検温（研修生は家庭で検温）を含め、コロナ感染防止策を万全に期した態勢の下で、第 1 次～6 次迄の 6 日間の研修が実施された。

研修中でも、全体集合時及び G ミーティング等で三密を回避すべく、適時に役員、J・L、青少指が指導する等の細かい配慮で感染防止を図った。

研修当初は、研修生の声小さく、世相を反映しているのかと心配したが、会を重ねる毎に持ち前の元気が戻り懸念が払拭された。

特に、班名決めでは、「Smile・Peace」笑顔で平和を名称した班もあり、現実を直視した考えに驚きと感銘を受けた。

第 6 次の日帰り研修は、「愛川ふれあいの村」で実施された。昼食のカレーライス作りでは、みんなで協力し合い、精魂込めた手作りの美味しさは格別であった。また、ゲームをグループ毎で話し合い、思いやり、助け合って発表した各グループの成長も素晴らしかった。

何と言ってメインイベントのキャンプファイヤーは、最高の盛り上がりであり、火を見つめる瞳はまるで“コロナ禍に負けないぞ”の意思を炎に伝えているようであり、とても印象的であった。

今後もコロナ禍に向き合う中で、今、この時の研修だからこそその貴重な体験が、コロナ禍を正しく恐れ、感染防止への強い意識が行動に反映されていた。その積極的な姿勢が、自信へ繋がる意図を少なからず理解した研修生にとって、思い出に残る研修会であったものとする。



麻溝地区 ★ジュニア・リーダー養成研修



麻溝地区では、コロナ禍の中でどのようにしてジュニア・リーダー養成研修会を実施できるか青少年指導委員、麻子連、シニアリーダーと相談しました。

養成研修会は、前期と後期に分けて行う事とし、前期は 11 月頃、後期は 2 月に麻っ子フェスタを実施する事にしました。

11 月の養成研修会では、研修生の体温・体調の確認、マスク着用、手洗いや指消毒、部屋の換気を行いました。

新型コロナ対策として研修生が密にならないようにするにはリーダーと距離を保つゲームでした。月とロケット、じゃんけんお巡りさん、絵しりとりは大人チームも参加して順位を決めました。結果発表後にプレゼントタイムを行い、順番に景品を受け取りました。

その後、積み木自己紹介、私は誰でしょう、カードをかざしそのカードを当てるゲーム続けました。後期の麻っ子フェスタは、実施に向けて準備を進めていましたが、1 月に緊急事態宣言が発令され、麻っ子フェスタは中止としました。

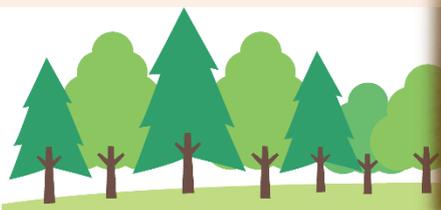
相模台地区 ★グリーンステップの復活を目指して

新型コロナ感染拡大で相模台地区協議会事業「グリーンステップ」の社会活動は大きな影響を受けました。

この事業は保護者、学校の理解を得て地域で子どもたちを育てることを目的としている為、中止にしたことはとても残念です。

2020 年の公民館青少年部事業であった子ども映画会や子どもまつりは中止となりましたが、2021 年に予定している手作り体験教室は青空の下、三密を避け、「木工教室・自分だけの宝箱作り」として現在計画しています。

(コロナの影響で 2021 年 6 月に延期)



鬼滅の炭治郎も欲しい宝箱。
君の大切なモノを入れちゃおう！

新磯地区 ★『芋掘り』 & 『あらいそこども展』

2020 年度はコロナ禍で例年実施していた行事は、1月に女子サッカーのノジマステラによるサッカー教室はできましたが、その後は、夏の体験教室「公民館に泊まるう」や、秋の「あらいそこどもまつり」は中止となりました。

新磯公民館青少年部では、コロナ禍という理由で、安全面の配慮から多くのイベントが中止となり、子どもの時にしかできないことを体験させずに大人にしているのかと考え、「新磯の子どもを笑顔にし、その子どもの笑顔で大人が元気をもらうイベントをしよう」をスローガンに、11月に毎年恒例のサツマイモ掘りを子ども会と協力して行い、たくさんのサツマイモをお土産に持って帰ってもらえました。

2021年の行事としては、2月に新磯地区の保育園、幼稚園、小学校、中学校、他子ども関連団体の作品を Facebook や YouTube で配信する「あらいそこども展」、7月に七夕、8月に子ども社会見学、12月にクリスマス会などを企画しています。



作品を通して子どもの
元気を届けます！

Facebook と YouTube
で配信します！



大きな芋が収穫できたよ！



みんなで力を合わせて芋掘りしたよ！

相武台地区 ★おうちで！体験クラブ

高学年対象に「ふれあい体験クラブ」を実施してきましたが、今年度は、例年の活動に変わり、「おうちで！体験クラブ」として、家庭で身近にある材料を使い、楽しんで簡単にできる工作を青少年部員と公民館のホームページに載せて配信しています。

小学校には、作り方を載せた、チラシを作成し全校配布用しています。

今出来る事を、地域の子どもたちに目を向けて、季節に合った工作を、毎回思いを膨らませて実施しています。

第 1 回「キャンディースパイダー
とスイーツハンド」



第 2 回「ランランランタン作り」



第 3 回「くつしたくるくるお雛様」



上鶴間地区 ★動画配信で皆さんに楽しんでもらいたい

こんにちは、上鶴間です！

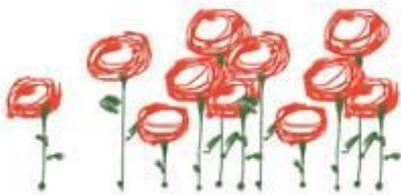
今年度はコロナ禍で事業がなかなか開催出来ず、大変な一年になってしまいましたが、そんな中、動画配信を二回実施しました。

一つ目はミニ門松🎍作り。30組先着でキットを配布、作り方を動画配信し、お家で作った門松の写真をメールで送って貰い展示しています。

もう一つはスイーツ作り。材料と作り方を動画で配信し、皆さんの作ったおいしそうなスイーツの写真が集まりました。これも展示しています。

従来のような事業ができない中、やり方を工夫して皆さんに楽しんで貰っています。

出来る事から始めよう、そんな一年でした。



東林地区 ★ふれあうことの大切さと再認識

どんなにリモートが進んでも、屈託のない笑顔で顔を合わせ、楽しく会話をしながら身近で触れ合う事の大切さを再認識する年になりました。

万全な感染対策を考えても安心できない事から、東林地区は他団体も含めて一切の事業を中止する年となり「来年もまた宜しくネ！」と再会を約束した小・中学生も、顔を合わす事が出来ないまま卒業して行きました。

コロナ禍での事業も模索していますが、活動経験が無い新任委員の方が多く、地区会議も感染予防で回数や時間を制限していることから、新たな事業計画は断念し、例年の事業を可能な範囲で活動しながら地区委員の交流と経験値を上げていく事を一番の目標に考えています。

「緊急事態解除」「自粛期間解除」「ワクチン接種」どの時点で安心して活動できるやら？・・・事業が続いて忙しくしていた時期が懐かしいですね！



大野南地区 ★みらいのまちは、どんなまち

『コロナに負けるな!!』 私達はコロナ禍の中で考えました。

まず、歴史と文化を伝承する「七夕」・「クリスマス」を企画しました。

七夕の笹やクリスマスツリーは大人たちが用意し、子どもたちに自由に飾ってもらいます。館内の小学校に趣旨を説明し、学校へチラシを配布した結果、多くの子どもたちが飾り付けをしてくれて大成功でした。

次に他の地区でも実施している動画作り。当地区では「毛糸でリース」・「折り紙」・「セミの羽化」・「科学」等を作りました。

そして、今年南区が誕生して 10 周年。これを記念して「みらいのまちは、どんなまち」と題して各小学校の生徒さんに作品を募集しました（この事業には南区長、及び幹部の方々にも参加していただきました）



南区 10 周年事業 《みらいのまちは、どんなまち》

これには 29 作品にも及ぶたくさんの作品が集まり、作品は暫くの間、大野南公民館に展示されました。

見に来てくださった方、ありがとうございました。



《クリスマスツリーをかざろう!》

大野中地区 ★コロナ禍での取り組み

大野中地区の取り組みとして二つ挙げられます。

一つ目は、10 月 31 日にハロウィン謎解きラリーとして公民館事業を実施したことです。

事業では屋外でコースを定め、その途中にチェックポイントを設け、問題をクリアしていくもので、それぞれ親子単位で密にならないように間隔をあけて実施しました。

久々の事業で、天候にも恵まれたこともあり、皆さん久しぶりの外出を楽しんでいたようです。

二つ目は大野中地子連の J・L 養成研修をリモートで行っていることです。

コロナ禍では大勢が集まって研修を行うこともできないため、リモートでそれぞれの家から参加して研修を行っています。内容はゲームが主で、リモートでもできるゲームを考え実施しています。また研修生にもゲームを考えてもらい、できればゲームを実施する側に立ってもらってゲームを進めてもらおうと考えています。今期養成研は 4 回の実施予定です。



ハロウィンウォークラリー



リモートでの J・L 養成研修の画面

大野台地区 ★子どもとの接し方を学ぼう！

コロナ禍で事業が中止になり、子どもたちと関わるができなくなってしまったため、事業再開時にスムーズな運営ができるように、公民館専門部である青少年部において下記の研修を行いました。

8/29 社会福祉士の方を招いて、
「子どもとのコミュニケーションと信頼関係づくり 講義」を開催

10/15 ステンドグラス風置物の創作

11/19 マッチ棒を利用した駒作り

12/17 牛乳パックを利用したブンブン駒作り

12/19 「子どもとのコミュニケーションと信頼関係づくり 実践編」
としてコミュニケーション演習を実施

今年度は再開に向けての研修でしたが、コロナ禍が収拾しないため、青少年部会の中で、この状況でも出来ることを今後に向け検討しているところです。



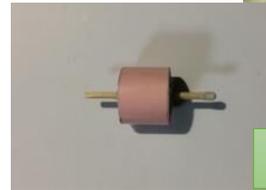
子どもとの接し方 講義



ブンブン駒作り



子どもとの接し方 実践



マッチ棒駒

大沼地区 ★子どもまつりかわら版

今年子どもまつりは開催できるのか…

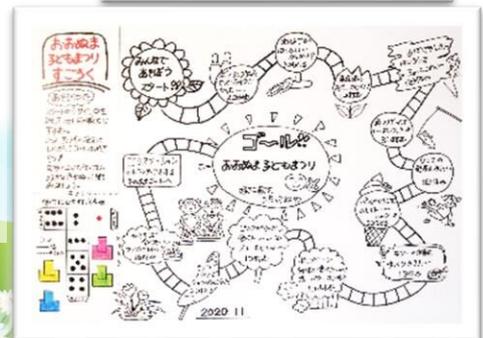
緊急事態宣言解除後、世間のイベントも中止やリモート開催になってゆくのを横目に議論を重ね、公民館青少年部として今年度は紙面で発表にすることに決まりました。

題して『子どもまつりかわら版～これまでのあゆみ～』

新しい様式としてオンラインが主流の現在ですが、古典的でも紙ベースなら全ての子どもたちに提供できるといった観点から、子どもまつり開催時期の 11 月、近隣の 3 小学校と 2 中学校の児童・生徒数での配布、こどもセンターへの配架等を行いました。

表面には「来年度につながるように」と子どもまつりの振り返りを写真と共に載せ、また「コロナ禍で不自由な子どもたちに少しでも遊びの要素を」と、裏面には子どもまつりの各ブースを「すごろく」形式で展開しました。

詳細を詰めながら思い出話に花を咲かせ、「28 年続いた子どもまつりを絶やしてはならない」という思いがたっぴり詰まった 1 枚となりました。



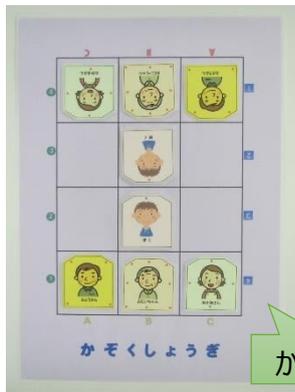
津久井地区 ★明るい新時代に向けた活動を

前年より新型コロナウイルス感染症の大流行という未曾有の事態に翻弄され、あたりまえの日常が激変し、青少年指活動もほぼ停止を余儀なくされている。

この難局を乗り越え、明るい新時代を迎えた折に地区協議会として取り組む新たな活動を模索した。

これまで定番としていた工作の他に、子どもたちにゲーム（かぞく将棋、おにぎりゲーム）作りとそのゲームで友達や家族で楽しんで頂く。このゲームは簡単に作成でき、手軽に遊べるアナログ的ゲームで、精神的成長、取り分け「根気・我慢・思考力」などの向上効果が期待できるようです。また、クラフトバンドを使ったハンドメイドの様々なアイテム作りにも挑戦して頂くことを検討している。

当協議会において継続的に実施している宿泊体験事業「お泊り隊」についても、20 回目の記念事業を次年度実施できるよう肅々とその準備を進めて行きたい。



かぞく将棋



おにぎりゲーム



クラフトバンドを使った手芸

城山地区 ★新任者向けに研修を企画

城山地区は現在委員数が 13 名ですが、その内の 5 名の方が新任です。

今年度は事業が全く実施できない状況なので、少しでも青少年指導委員の活動内容を理解してもらえような研修を企画しました。

研修その 1：11 月 11 日に代表的な 3 事業「ふれあいウォーク&クッキング」「もみじまつり(こどもの広場)」

「おやこふれあい工作～クリスマスリースをつくろう！～」について映像と資料を見ながら説明しました。

研修その 2：事業の一つである「おやこふれあい工作」のクリスマスリースを 12 月に試作する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染予防のために残念ながら実施できませんでした。来年度の状況も全くわかりませんが、少しずつでも何か活動ができるように知恵を出し合い検討していく予定です。



研修のようす



2020 年度表彰受賞者紹介 > 受賞された皆様おめでとうございます <

青少年指導員活動に尽力する指導員への表彰式が行われ、相模原地域からは、山口隆さん(麻溝)、奥野智さん(相武台)、加藤美夜子さん(大沼)の 3 名が表彰されました。



【受賞のことば】

山口隆さん

青少年指導員活動を通じ多くの素晴らしい仲間、子どもたちの成長を共に過ごす機会ができ大変感謝しております。



奥野智さん

これまで十数年、青少指の仲間と共に貴重な体験ができ私の財産となりました。家族の理解や地域の支えにも感謝です。いつまでも子どもと関わっていききたい！
元気でいられる秘訣は子どもたちからのパワーと笑顔のおかげです。



加藤美夜子さん

表彰ありがとうございます。青少年指導員の仲間、子どもたち、地域の方々との出会い、多くのことを学ばせていただき、心より感謝いたします。



上記の県・青少年指導員表彰の他にも、次の方々が受賞されています。

■ 相模原市市政功労表彰（2020 年 11 月 20 日 市制記念日）

奥野智さん(相武台)、宮地よし子さん(上鶴間)、杉浦眞生子さん(相模湖)

■ 神奈川県青少年育成活動推進者表彰（2021 年 2 月）

山形実千代さん(相武台)、小林千鶴子さん(東林)、石井明美さん(相模湖)

2020 年 11 月

親子ふれあいの広場オンライン開催

今年の親子ふれあいの広場はコロナ禍のため、現場開催は中止となり、YouTube とラジオでの開催となりました。青少年指導委員も YouTube（テレビさがみはら）に活動の紹介動画を、ラジオ（FMHOTO839）ではインタビューに答えています。

見逃してしまった方のために、さわりを紹介します。



11月14日、28日

エフエムさがみ(FMHOT839)で青少指のインタビューを放送

◆インタビュー内容の紹介◆

インタビュー：橋本地区ジュニア・リーダー

回答者：本郷永子



ラジオ収録の様子

Q. 青少年指導委員の皆さんには、普段から相模原市内の多くの地区で、ジュニア・リーダー養成研修で指導いただいていますね。

A. はい、昨年までだと、夏休み前あたりから研修がはじまり、市内の、地区により多少の違いはありますが、数回から十数回の研修が行われ、我々青少年指導委員も一緒に活動をしていますよね。今年度は研修を行えている地区がとても少なくてさみしいですね。

Q. そうですね。このコロナ禍の中であっても、安全な活動の場があるといいですね。

さて、青少年指導委員さんって、昨年までと名前が違っていたと思いますが…それと、普段なさっていることについて教えてください。

A. 今年の4月から、（相模原市では）「青少年指導員」から「青少年指導委員」になりました。詳しく説明すると難しくなるので、ここではませんが、呼び名が変わりました。でも、活動の内容は、基本的に今までと同じです。

私たちは、市内を27の地区に分けて、公民館長の推薦をいただき、地区ごとに特徴のあるさまざまな活動を行ったり、関わったりしています。

どの地区にも言えることは、「自分の住む地区の中に『青少年の遊び場、たまり場』を作ることで、社会からの様々な誘惑に負けない、健全な青少年を育てる活動を行っている」という点では共通しています。

詳しい活動については、広報誌「はげいとう」や、青少年指導委員のパンフレットをホームページで見ることができますので、「相模原市 青少年指導委員」で、ぜひ検索していただきたいと思います。

Q. さて、今年度の「親子ふれあいの広場」で、青少年指導委員のみなさんと遊ぶ機会がなくなりましたが、いままではどんな活動をしていたのか、皆さんにわかりやすく教えてください。

A. 昨年度までは、大きく分けて3つの「遊び」を、「親子ふれあいの広場」で行っていました。

1つ目は「創作コーナー」。毎年異なる工作づくりにチャレンジしていただき、出来上がった工作を使い、それを飛ばしたりして遊んでもらいました。

2つ目は、毎年好評の「魚釣り」です。決められた時間内に、磁石の付いた釣り竿を使って、クリップのついた魚の釣れる数を競ってもらっています。

3つめは、「バンブーダンス」です。2本の竹を使い、リズムに合わせて飛んでもらいます。流れている曲が3拍子なので、普段4拍子に慣れている子どもたちの皆さんには、慣れるまで少し時間がかかりますが、一度分かると「病みつき」になって遊んでもらっています。

Q. そうでしたね。でも今年は、会場で行う「親子ふれあいの広場」がなくなってしまったのですが、画像「さがみはらチャンネル」でアップされている映像の内容は、どのようなものですか？

A. はい。この「コロナ禍」でも、「おうちでできる工作」を1つ選び、その作り方を説明付きで画像にしています。実は、青少年指導委員の仲間たちのほとんどは、普段は別の仕事をしていたりして、いつも市役所や公民館に居たりしているわけではないのです。なので、みなさんのような青少年が、地元ですくすく育っていくのを見守ることのできる担い手である青少年指導委員の仲間をもっと必要としている地区があります。そのため今回は、青少年指導委員の仲間を募集する内容も、画像に入れることにしました。

Q. お話を聞いていると、青少年指導委員のような皆さんが、相模原市内の各地域で、もっと知ってもらえるといいと思いました。

A. そうですね。私たち青少年指導委員は、なりたての人から20年以上の経験がある人たちまで、いろいろなメンバーがいます。でもそこに共通していることは、自分の地域に住んでいる青少年のみなさんの成長を見守り、時に話したり触れ合い、成長していくことが、とてもうれしい、ということなのです。私たち青少年指導委員の活動が、ますます市民の皆さんに認知され、広く社会に信頼される大人として知っていただければと思います。

1月11日 はたちのつどい着付け直し グリーンホール・相模原市民会館・杜のホールはしもと

◆◆◆新成人にエール!◆◆◆

緊急事態宣言が再発令されて、すぐの 1 月 11 日（月）、各区それぞれ 5 つの時間帯に分けるなど、感染対策を十分に配慮され、2021 年の相模原市のはたちのつどい(成人式)も無事に開催されました。

コロナ禍で制約ばかりの中、それでも若い人たちは前を向いて歩みを進めていました。

そんな新成人を陰でささえる青少年指導委員による、晴れ着の着付け直しのお手伝いも今年で四年目。朝早くからスタンバイして、優しい言葉をかけながら、新成人たちの着物や帯の乱れをなおして、笑顔に戻して送り出します。

大人への第一歩を踏み出す記念すべき日に、少しでもお役に立てることに喜びを感じながら・・・。



※この事業は、一昨年より青少年指導委員連絡協議会が受託しており、本市に住む若者の新たな門出を祝い、支える役割を果たしています。



着付け直しの様子



■ 連絡協議会・市の主な事業

- ▶ 市民桜まつりチビっ子広場 …広場での開催は中止、バーチャル開催(4月)
- ▶ 青少年指導委員総会 …開催準備中
- ▶ ミニ運動会 …何らかのかたちで開催します



☆第 64 号は 2022 年 3 月発行予定です。

■ はげいとう 第 63 号 編集スタッフ

広報部長	齊藤 一城(大野中)	
副部長	近藤 郁恵(横山)	安藤 和代(新磯)
書記	榎本 好二(星が丘)	中澤 純一(大野中)
会計	神戸 てるみ(田名)	(順不同)
部員		
萩谷 美智子(相原)	渡辺 恵(橋本)	赤坂 悦子(小山)
鈴木 悦子(大沢)	高橋 智子(大沢)	歌川 俊子(清新)
夏目 利江(中央)	平澤 彰(大野北)	久保 知子(上溝)
加藤 正道(津久井)	砂金 富保(相模湖)	平井 一男(城山)
濱野 亨(藤野)	林 富一(光が丘)	高山 宏(陽光台)
佐藤 文雄(麻溝)	山形 実千代(相武台)	鶴井 雅美(相模台)
瀧本 行由(東林)	塚 英一(大野南)	大塚 寿子(大野南)
岡本 育久(上鶴間)	馬場 伸治(大野台)	藤巻 亜紀(大沼)

■ 編集後記

なかなか前に進まないもどかしさ。3月発行予定が2ヶ月も延びてしまい、年明けから足かけ4ヶ月編集作業を続けた。その中で思ったのは、状況に左右されず、皆さんに楽しんでもらえる物を作っていくことが大事なんだと。部員一同で校正作業を終えたとき、ひさびさに充足感を得ました。そして次の目標に向かって進み始めます。今後ともよろしくお願ひします。

広報部長 齊藤一城

はげいとうは、相模原市のホームページから見る事が出来ます

「相模原市 はげいとう」で 🔍 検索

QRコードでも検索できます⇒

